

平成30年度 南アルプス市立若草南小学校 後期自己評価書

南アルプス市立若草南小学校
校長 河野良一

学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校

〔育てたい児童像〕 ふるさとを愛する児童の育成 < 若南プライド >

〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める積極的な活動に取り組む精神を醸成する。

〔学校経営の重点〕

1 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

(教師集団による組織的・計画的な研究からの授業実践を展開する。)

- (1) 基礎的・基本的事項をしっかり教え、確実な定着を図る。(繰り返し学び、定着化を図る)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。
(若南スタンダード、やまなしスタンダードの定着化)
- (3) 体験的活動や地域教材・地域の人材活用など積極的に取り入れ授業の活性化に努める。
(体験的活動、地域教材・人材の活用)
- (4) 学習規律の確立を図る。(学習用具の準備、ノートの取り方、授業終始時の挨拶)
- (5) 家庭との連携・協力を図り、確かな学力の定着化をめざす。
(宿題・自主課題の定着化、習慣化)

2 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 共感的理解に努め、心が通い合う教育を推進する。
- (2) 自尊感情の育成を図る。(教育活動全体を通して、「自分を大切に思う心」の育成)
- (3) 学校教育全体を通して道徳教育をめざす。(考え議論する道徳 道徳教育の日常化)
- (4) より良い人間関係を築き、充実した学校生活を実現するための集団活動に取り組む。
(児童会活動、たてわり班活動の積極的な取組 自治的活動の醸成)
- (5) 読書活動・音楽活動を通して、豊かな情操・感性の育成を図る。

- (6) 豊かな人間性を育むため、充実した体験的活動に取り組む。
- (7) 礼儀正しい、規律ある学校をつくる。
 - ・場に応じた言葉使いができる。 (丁寧な言葉遣い)
 - ・基本的生活習慣の徹底を図る。(あいさつ・返事・靴そろえ・イス入れなど)
- (8) 美しい環境づくりに心がける。 (無言清掃(黙働清掃))
- (9) 人間尊重の精神、社会生活上のルールなどの倫理観、夢や生きがい感の醸成を図る。 (忠恕の心 キャリア教育の充実)

3 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 教育活動全体を通して、安全・防災について実践的な指導を行い、日常の実践化を図る。
- (2) 給食の時間を中心に食育の充実に努める。
- (3) 粘り強く最後までやり抜く強い意志をもった心身共に健康な児童の育成を目指す。
- (4) 体力向上に向けて、充実した体育の時間・遊びの時間の確保、スポーツの奨励など積極的に推進する。(運動の日常化)

4 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。

- (1) 交流学級・在籍学級の担任、保護者・関係諸機関との連携を図り、指導の充実に努める。
- (2) 一人ひとりのニーズに対応した適切な指導・教育相談に努め、また、地域における児童の教育に関するセンター的な役割が果たせるように努める。(サポートルームわかくさ)
- (3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その活用を図る。

5 連携・協働し、支え合う教職員組織をつくる。

- (1) 全教職員の総力・創意を出し合い、連携・協働し、支え合う教職員組織をつくる。
- (2) 教育公務員としての自覚を持ち、厳正な服務規律の確保に努める。
- (3) 保護者や地域との連携・協力を大切にされた教育活動を進める。(説明責任を意識した教育活動)

6 家庭や地域との連携の中で開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を展開する。(連携・協力体制の確立)
- (2) 地域の一員としての自覚や地域を大切に思い、地域が誇れる心を醸成するための手立てとして地域の教材化と地域人材の活用、地域活動への積極的な参加を推進する。(地域・地域人材の活用と地域行事への参加・地域貢献)

【評価方法】

児童、教職員に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。

AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時

点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
- 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

1 第2回児童アンケート・保護者アンケートの考察

【児童アンケート】

1学期と比較し、肯定的な回答が下がった項目

| 質問内容 | 1学期の肯定的な回答 | 2学期の肯定的な回答 | 差 |
|-----------------|------------|------------|-------|
| 1 学校へ行くことが楽しい | 96.4% | 93.6% | -2.8% |
| 10 進んで発表する | 78.2% | 74.1% | -4.1% |
| 14 家庭学習をしっかりと行う | 97.9% | 94.2% | -3.7% |
| 15 本をよく読む | 82.2% | 78.7% | -3.5% |

児童アンケートの結果は、ほぼ1学期と同様な数値であった。上記の4項目については、3%以上の開きがあった。

【保護者アンケート】

否定的な回答が多かった項目

| 質問内容 | 肯定的な回答 | 否定的な回答 | |
|----------------|--------|--------|--|
| 3 きちんとあいさつしている | 83.0% | 17.0% | |
| 4 家庭学習の習慣 | 82.1% | 17.9% | |

保護者アンケートの結果は、10項目のうちすべての項目で肯定的な回答が80%を超えており、概ね満足できる結果であった。

児童1の項目「学校へ行くことが楽しいです」について

「学校へ行くことが楽しい」については、すべての児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図ってきたが、6.4%の児童が否定的な回答をしている。肯定的な数値は「そう思う」が71.6%から74.4%と高くなっているが、**現状に満足せず、一人ひとりの児童を大切にしていける教育をこれからも継続していきたい。**

児童10の項目「自分で考えたことを進んで発表する」について

発言をすることに対して、児童の肯定的な回答は74.1%と1学期より4.1%低い結果であった。また、「そう思う」の割合も44.4%から41.8%と低くなっている。自分の考えを伝え合う学習を取り入れ、授業方法を工夫してきたが大きな成果が得られなかった。高学年になるほど否定的な回答が増

えていくことが本校の課題の一つであり、今後も継続して発表する力を育成していきたい。校内研究会においても全職員で共通の課題としてとらえ授業改善に取り組んでいきたい。

児童 14 の項目「家庭学習をしっかりと行っている」について

「そう思う」が 84.0%から 78.4%と 5.6%低い結果となった。家庭学習取り組み週間や学びノートなどの活用を図ってきたが、結果に結びつかなかった。特に「そう思う」の割合下がってしまったことは、大きな反省材料である。各クラスごとに分析を行い、学年ごとに改善策を考えていきたい。結果をもとにまとめの学期である 3 学期の取り組みを進めていく。

児童 15 の項目「本をよく読みますか」について

今年度の図書貸し出し総数（1・2 学期）は 27,851 冊（一人当たり 83.1 冊）となっている。個人差が大きいことやアンケート項目が漠然としていることも影響していると思われる。教科の学力が高いことと、読書量（読書好き）には高い関係性があることが報告されており、読書の楽しさや大切さについて指導してきた。今後も図書の時間や家庭での読書について、指導を続けていきたい。図書委員会の取り組みや職員やボランティアさんの読み聞かせなど、より一層の改善を図り、児童の読書への意識を高めていきたい。

保護者 3 の項目「きちんとあいさつしている」について

児童アンケートでは 90%以上の児童が、学校や地域において挨拶をしていると回答している。しかし、保護者アンケートでは「そう思う」が 38.1%、否定的な回答が 17.0%と児童との結果に開きがある。不審者対策もあり、見知らぬ人への関わりを持つことに抵抗があることも事実であるが、今後も保護者や地域と一体となってあいさつ運動への取り組みを続けていきたい。

保護者 4 の項目「家庭学習の習慣が身につけている」について

児童アンケートでは、肯定的回答が 94.2%（1 学期 97.9%）であるが、保護者アンケートでは 82.1%となっている。「そう思う」は 34.0%と全回答の中でも最も低い。否定的な回答 17.9%、中でも「そう思わない」4.3%あり、家庭学習は保護者にとって大きな課題となっていることがわかる。学校と保護者との情報交換や、協力・協働がより一層求められる。家庭学習取り組み週間など、より一層連携を深めた取り組みを進めたい。

2 第 2 回職員アンケートの考察

【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、前期に引き続きすべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

I 教育目標に関して

すべての項目で肯定的な評価であった。学校教育目標の達成に向かい職員が共通理解を図り取り組んできた結果が見られた。校長からは「笑顔あふれる学校」「人の痛みがわかる児童」と児童や職員

に呼びかけていたことも意識付けとして大きな効果があった。

II 学校経営・組織について

児童は行事を通して多くのことを学んでいく。充実した学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きいと考えるが、学校行事の共通理解という点においては1学期同様やや課題がみられた。中休みの利用の仕方や、行事の重なる点で担任の負担感が感じられる。**学校の教育活動が円滑に進むためには、職員の共通理解を図ることが大切**である。**見通しを持ち計画を立てることを心がけ**、児童にとってより有意義な学校行事が展開されるよう努めたい。合わせて行事の精選についても見直しを進めていきたい。

III 学習指導・児童指導について

1学期と比較し、全体としてよい結果が見られた。校内研究の取り組みや、一人ひとりの児童が「勉強が楽しい」「授業がよくわかる」と思えるよう、日々授業改善に努めてきた結果が成果として表れた。今後は児童アンケート「授業が分かります」での否定的な回答 5.8%や、保護者アンケート「家庭学習の習慣」での否定的な回答 17.9%について、**今まで以上に一人ひとりの児童に目を向け改善を図っていききたい**。

いじめのない学級づくりは、最も大切にしたい学級経営として取り組んできた。子どもの間違った行動に対し、学校は**早期発見早期対応**に努めていかなければならない。また、保護者との連携も密にとり指導にあたる必要がある。いじめと思われる事案については、管理職とも連携する中で丁寧に対応している。今後も全ての児童がいじめのない居心地がよいと感じられる学級づくりに取り組んでいきたい。

IV 安全管理

学校は、子どもにとって**安心で安全な場所**でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。安全点検、設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保や事故防止について不測の事態が起こらぬように努力してきた。

子どもたちの安全確保や事故防止について、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。また、保護者と連携し通学路の安全点検や街頭指導を行ってきた。今後も、保護者や地域と一体となり、**児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育**を推進していききたい。

V 保護者・地域との連携

1学期と比較し、「そう思う」の割合はすべて向上している。保護者と日頃より連絡帳や電話等で連絡を密にとる姿が見られる。保護者アンケートから、「授業参観や学校開放日等で様子を見る機会を設けている」の肯定的回答 99.7%、「学校は保護者からの相談や要望に適切に対応している」の肯定的回答が 96.6%と非常に高い評価を得ている。学校と保護者との良好な関係は、児童の望ましい教育活動につながっている。これからも**丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努め、保護者や地域に開かれた学校づくりを積極的に進めていきたい**。

3 まとめ

重点項目の考察

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような『居心地のよい学校づくり』を進める。

- ・児童会主催の行事や縦割り班活動、委員会の集会や取組など、6年生を中心にとっても充実した内容の活動ができた。また各学年、学級における取組も一人ひとりの児童を大切にされた内容で実施され、そのことが児童にとって楽しい学校につながっていった。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、活動の振り返りを行っていくことに努力してきた。しかし、「学校へ行くことが楽しい」の児童の否定的回答 6.4%、保護者の否定的回答 5.6%となっている。この結果については謙虚に受け止め、今後も継続して一人ひとりの児童をしっかりと見ていきたい

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、『学び合う環境づくり』に努める。

- ・授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていくことに取り組んできたが、結果としては改善してはいない。各学年・各学級において結果をしっかりと分析し、改善策を考えていきたい。アクティブラーニング(主体的・対話的・深い学び)についてさらに研究を深め、授業改善を図っていききたい。
- ・個に対応することは、とても重要な課題であり同時に難しい課題でもある。ティームティーティング(複数教員による授業)や教育ボランティアの活用を今まで以上に充実させ、一人ひとりに分かつ授業の実現に向け、より一層の学び合う環境づくりを進めていく。

○『家庭学習』を充実させる。

- ・「家庭学習」については、保護者の課題が見られた。学校と保護者との情報交換や家庭での協力・協働についてさらに連携を深めていきたい。
- ・今後も家庭学習取り組み週間を設けさらなる家庭学習の充実を図っていく。

○『いじめは絶対に許さない』という毅然とした態度で指導にあたる。

- ・保護者アンケートからは、学校のないいじめのない学級づくりに対し 92.6%の肯定的回答を得られた。小さな事案に対しても一つ一つ丁寧に取り組んできた結果と言える。これからもいじめのない学校づくりに取り組んでいきたい。